

## シンポジウム『外国にルーツをもつ若者たちのさまざまな発信で変える社会』 趣旨説明および発表内容

### <趣旨>

移民の第二第三第四世代、ミックスルーツなど、外国にルーツを持つ若者たち自身の表現／発信活動などが活発になってきているが、日本社会は彼／彼女たちの力を活かしているのだろうか。当事者として現場で活動や研究をする若者たちの報告とともに、実際のパフォーマンスで社会を変えようとする若者たちの発信を体験し、それを踏まえて研究者や実践者からコメントを交えて、その意義を模索するというシンポジウムを開催し、参加者とともに今後の社会について議論する機会とする。

#### ・発表概要（パフォーマンスおよび活動報告）

##### 1) エドワード須本（ミックスルーツ・ジャパン代表）

###### 「横の繋がりとアイデア・人材資源の活用と育成」

内容：身の回りの多様性は全体的な人数や政策動向とは別のペースで成長しています。現代の日本には特有の複雑な多様性が成長していることを認識し始めており、国内の政策のみならず国際的な情勢にもこの多様性との向き合い方が大きな影響を及ぼすと思われます。多様な人々の背景やアイデアを横で繋げるにはどうすればいいか？移民政策とは異なる国内の多様性社会政策について問題提起をします。

##### 2) トーマス友基

現在はとよなか国際交流協会を中心に映像作品などを通じてルーツを持つ若者が自分らしく生きられるようにする活動を展開している。

自分の生い立ち、トモダチ作戦を始めるに至った経緯と実践報告、昨今変化してきている「ハーフ」のイメージと当事者の感覚についてなど。

##### 3) 松原ルマ ユリ アキズキ

「“レモン” “ヒョジュンへ” “わたしのことば、わたしの道” など、これまでの映像発信の意義」（映像紹介）

内容：生後2カ月でブラジルから来日した私は、家族の中で唯一、ポルトガル語を話すことも理解することもできません。そんな私が「映像」に出会ったのは小学6年生の頃でした。それまで、自分の想いや葛藤を家族にも友人にも話すことのできなかつた私にとって、映像は自身の心の中をさらけ出せるツールのひとつです。これまで制作した作品を振り返るとどれも打ち明けられなかつた想

いを綴ったものでした。家族に向けて、友人に向けて綴っただけの映像だったはずが、多くの方から感想を頂き、改めて感じたことがあります。それは、私たちのような外国にルーツを持つ若者の想いは全く特別(・・)なものではなく、本質は他の人々と同じである「普遍的」なものであるということです。そう思えた今、私は自身を特別視することなく、私のコミュニケーションツールである「映像」でこれからも想いを伝えていきたいと思っています。

#### 4) パクウォン (遊合芸能 親舊達チングドウル)

「老若男女国籍問わずみんなで遊び合う街と芸能の祭り “遊合祭”」

内容：在日コリアン3世として生まれたパクウォンが神戸の長田という町で育ち、今現在自国の伝統芸能を通じた自身の発信（伝統・文化・交流・遊合 [融合]・祭）を日本全国で行っている。キーワードは、「在日コリアン3世」

「在日の父と日本人の母を持つ趙恵美」「遊合芸能 親舊達チングドウル」

「遊合祭」～少し発展して”長田”における在日の存在